

## 信濃川右岸堤防 中之島町並木新田

調査日：平成 16 年 10 月 27 日（水）、11 月 8 日（月）

班：地盤土構造マネジメント班 [10 月 27 日：石原、11 月 8 日：古関・石原]

分類別：被災状況

キーワード別：河川堤防、液状化

### 調査結果

信濃川と猿橋川の間にある本堤が約 200m に渡り被災した（図 1、写真 1、2）。調査時点には既に応急復旧済みであった（写真 3）。被害は、亀裂や段差のほか、最大 1 m 程度の天端陥没が生じていた。また、亀裂や段差は、天端から猿橋川側ののり面や小段に多く発生していた。被災区間よりもやや上流にある樋門の堤外地側で噴砂（中砂）が見られた（写真 4）。ただし、樋門近傍の堤防に変状は見られなかった。堤外地側の噴砂は、樋門よりもさらに上流側の無被災箇所の高水敷にむしろ多く見られた（写真 5）。堤内地側には噴砂を確認することはできなかった。

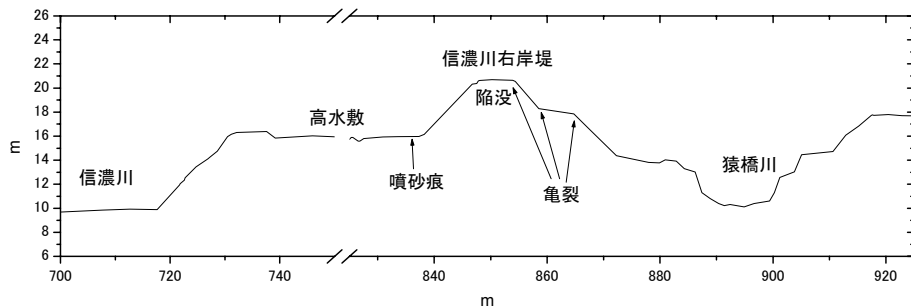


図 1 信濃川右岸 6.5km 堤防断面図（データ：国土交通省北陸地方整備局提供）



写真 1 堤防天端に生じた亀裂。右手が信濃川、左手が猿橋川。堤内側（猿橋川側）ののり面及び小段にも大きな亀裂あり。（2004年10月27日撮影）



写真2 のり肩を残し天端が1m程度沈下（2004年10月27日撮影）

写真3 応急復旧完了後の状況（2004年11月8日）



写真4 堤外側法尻の噴砂痕



（2004年11月8日）

写真5 無被災区間高水敷に見られる



噴砂痕（2004年11月8日）